

尾張徳川の足跡を訪ねて 17 ～藩訓碑～

儒学が大好きだった初代藩主義直公は著書「軍書合鑑」の巻末に、「王命に依って催さるる事」と記したそうです。この文言が名古屋城二の丸にある碑に記されています。歴代藩主は、この天皇を敬う勤王の精神を藩訓として守り伝えたとか。幕末に慶勝公はこの教えに沿って行動したと



藩訓秘伝碑

この碑文は、徳川義直の直撰「軍書合鑑」の中にある一項の題目で勤王の精神について述べている。

歴代の藩主はこれを藩訓として相伝し、明治維新にあたっては、親藩であったのに勤王帰一を表明したといわれている。…とある。



藩訓秘伝碑解説板

もいわれています。

義直公は、学問好きで、神社についての「神祇宝典」や歴史書「類聚日本記」教育論「初学文宗」などを著しています。また、剣術や長刀など武術の振興にも熱心でした。義直公のお陰で武芸が名古屋に根付き、今も脈々と流派が続いているのですね。